

第1章 オリентと地中海世界 1 古代オリент世界

f.東地中海世界 (教29~31 図8~9)

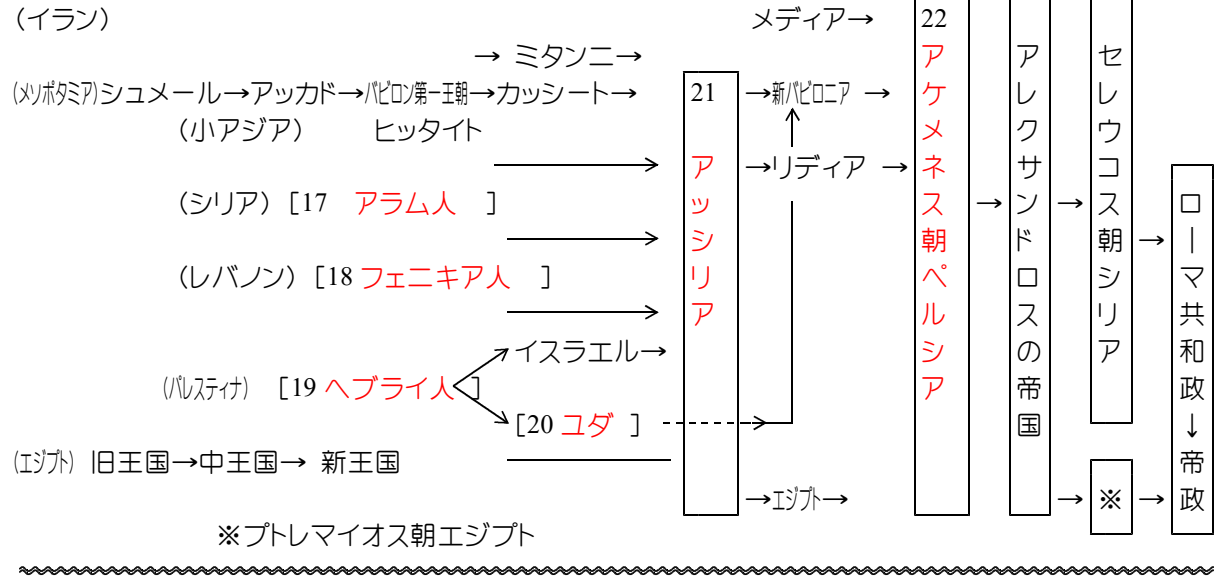
地中海東岸の[1 シリア][2 パレスティナ]地方には、前16世紀以来[3 エジプト新王国]・[4 ヒッタイト]が進出、激しく争っていたが、前15世紀ころから[5 「海の民」]とよばれる民族が侵入、大国の影響力が低下したのに乗じて、特徴的な3つのセム系民族が活躍した。

[6 アラム]人は[7 ダマスカス]を中心に[8 内陸]通商に従事、アラム文字を西アジア各地へ伝えた。これは現在の西アジアのみならず中央アジアや北アジアの文字の基礎となっている。

これにたいし、海上交易で活躍したのが、[9 フェニキア]人である。彼らは[10 シドン]・ティルスなどの都市国家を拠点に地中海全域に進出、植民都市を形成、またその文字を各地に伝えた。これが[11 アルファベット]の起源となる。

前1500ころパレスチナに定住した[12 ヘブライ]人は、前11世紀には王国をたて、[13 ダヴィデ]王やソロモン王のもとで全盛をむかえたが、のち北の[14 イスラエル]と南の[15 ユダ]王国に分裂、滅ぼされた。彼らが作り出したのが[16 ユダヤ]教である。1世紀、この宗教のなかから[17 キリスト]教が生まれる。

国・民族の興亡図



①地中海東岸=シリア・パレスティナ地方 → 23 陸上・海上交易 の要衝として発展
 ↓
 カナーン人などの活躍(前1500ころ)
 前16世紀以来、[24 エジプト新王国]・[25 ヒッタイト]が進出、激しく争う。

前13世紀前後 [26 「海の民」]とよばれる海上民の侵入、破壊と略奪 → 大国の勢力後退
 ↓

[27 セム]系の三民族(アラム人、フェニキア人、ヘブライ人)の活躍

②[28 アラム]人…シリアのダマスカス中心に 29 内陸都市を結ぶ中継貿易 で活躍
 [30 アラム]文字を西アジア・中央アジア各地へ伝える → 現在の東方の文字の基礎
 ([31 アラビア]文字・モンゴル文字・満州文字など)

③[32 フェニキア]人(セム族)…シドン・ティルスなどの都市国家をつくる

地中海全域で[33 地中海]貿易に従事 → [34 カルタゴ](現チュニス)などの植民都市形成
 表音文字[35 フェニキア]文字を基礎にフェニキア文字をつくる、ギリシャに伝える
 → [36 アルファベット]の起源

⑤[37 ヘブライ]人(セム族)…前1500ころパレスチナに定住 → 前11世紀王国形成(ユダヤ人)

◎ヘブライ人とユダヤ教

セム系の遊牧民のヘブライ人は、前1500ころ[38 カナーン]に定着したが、その一部は[39 エジプト]新王国に移住した。しかし前13世紀末にファラオの圧制をのがれ[40 モーセ]に導かれてパレスティナに戻った。このことを[41 出エジプト]という。なおこの途中、モーセは神から人間が守るべき戒め([42 十戒])を与えられたという。またこのとき、モーセはこの戒めを守ることと引換えに、彼らだけが救われるという[43 契約]を行ったとされる。

前11世紀末になるとヘブライ人たちは王国を築き、前10世紀の[44 ダヴィデ]王とその子[45 ソロモン]王のもとで栄えたが、その後、王国は北の[46 イスラエル]王国と南の[47 ユダ]王国に分裂し、イスラエルは前8世紀末にアッシリアによってほろぼされ、ユダも前6世紀初め[48 新バビロニア]に征服され住民の多くがその都バビロンにつれさらされ、半世紀をその地で暮した。このことを[49 バビロン捕囚]という。

このような逆境のなかで、彼らはいっそう[50 唯一絶対]の神[51 ヤハウェ](エホバ)への信仰をつよめ、自分たちこそが神から特別に選ばれた特別な民であるという[52 選民]思想を信じ、いつか[53 救世主(メシア)]が出現し自分たちを救ってくれるという信仰を強めた。

前6世紀後半、かれらはアケメネス朝によって解放され、帰国すると[54 イエルサレム]に神殿を再興し、儀式や祭祀の規則をさだめ、[55 ゴロアスター]教の影響を受け天使と悪魔、最後の審判の観念なども生まれ、[56 ユダヤ]教は成立した。

こうしたユダヤ(ヘブライ人)の伝説、神へ賛歌、預言者の言葉などは[57 『旧約聖書』]としてまとめられ、ユダヤ教の教典となった。

ユダヤ教のちに[58 キリスト]教の基礎となり、さらに[59 イスラーム]教形成にも大きな影響をあたえた。